

A-6-1

協調的問題解決タスク中の視線と不安および失感情症傾向の調査

奈良先端科学技術大学院大学 宮本佳奈 田中宏季 中村哲

研究概要

□ 協調的問題解決タスク

- 他者と協力して物事を解決する社会生活で重要なタスク <例> グループワーク、プロジェクト活動

□ 先行研究: 協調的問題解決と視線

- 協調的問題解決に不安や失感情症傾向が影響を与える
- 不安や失感情症傾向が高いほど他者の顔を見ることを避ける

失感情症の特徴

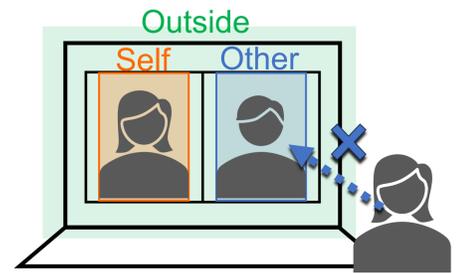
- 自身の感情を認識し、言葉で表現することが苦手
- 空想力や想像力に欠ける

□ リサーチクエッション

- 協調的問題解決タスク中の視線は、不安や失感情症傾向の影響を受けるか

□ 仮説と結果

- 不安や失感情症傾向が高いほど会話相手 (Other) を見る割合が低い
→ 仮説を支持、また不安傾向が高いほど外側 (Outside) を見る割合が高いことも示した



2名がオンラインで協調的問題解決タスクを実施

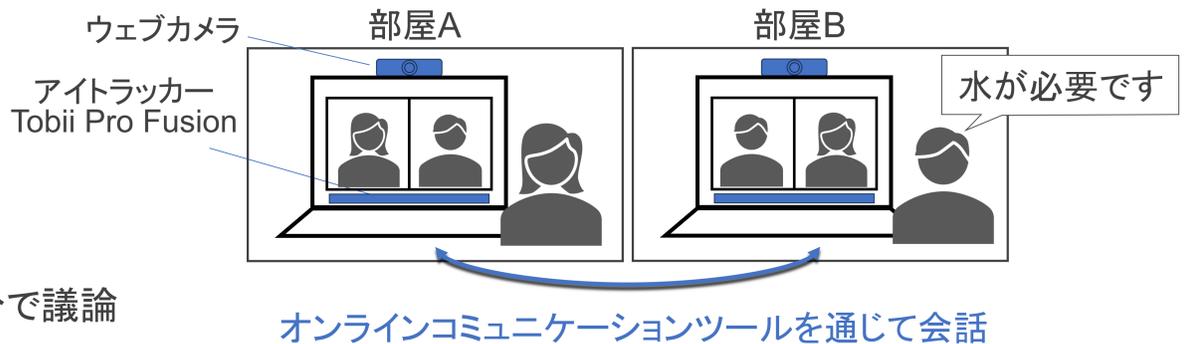
データ収録

□ 参加者

- 男性 25名、女性 25名 (平均年齢 39.4歳)
- ランダムに初対面同士の2名1組を作成

□ タスクの内容

- 飛行機が山に不時着した場面を想定し、生き残るために必要なアイテムを制限時間5分で議論



オンラインコミュニケーションツールを通じて会話

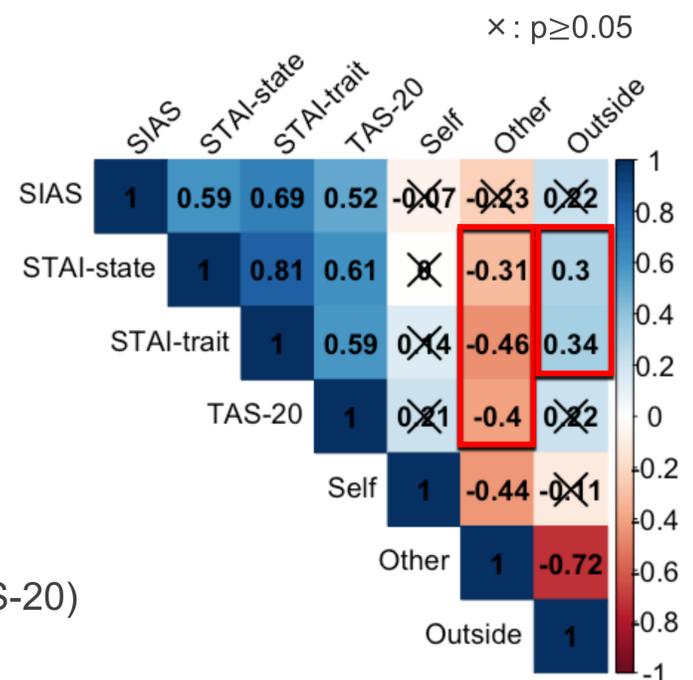
相関分析

□ 視線の特徴量

- 下記のエリアを注視している割合をソフトウェア Tobii Pro Labを用いて算出
 - 自分 (Self)
 - 会話相手 (Other)
 - それ以外 (Outside)

□ 質問紙

- 対人不安 : Social Interaction Anxiety Scale 日本語版 (SIAS)
- 全般的な不安 : 新版 STAI 状態-特性不安検査 (STAI)
 - STAI-state : 状態不安尺度
 - STAI-trait : 特性不安尺度
- 失感情症 : 日本語版 The 20-item Toronto Alexithymia Scale (TAS-20)



□ 視線と質問紙のスピアマンの順位相関係数

- 不安および失感情症傾向と会話相手 (Other) を見る割合は負の相関 → 会話相手を見ることを避ける
- 不安傾向と外側 (Outside) を見る割合は正の相関 → 会話相手や自分に関係なく人を見ることを避ける
- 対人不安と視線には有意な相関が見られなかった

今後の課題

- 視線の分析エリアを目や鼻などに細分化
- 発話時と聴取時を区別した視線の分析